

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education (Language)		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	前期 後期
科目	施行規則に定める科目区分又は事項等			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員名	
			中司 志磨子	
演習	2	必修	担当形態	
			単独	
全体目標及び概要				
<p>幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。</p> <p>言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。</p> <p>言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に着ける。</p>				
一般目標及び到達目標				
<p>(1) 幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いをふまえた指導の考え方を理解している。</p> <p>1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のあり方、評価を説明できる。</p> <p>2) 幼児の心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し、発達段階に応じた言葉かけができる。</p> <p>3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。</p> <p>(2) 言葉の重要性を理解し、幼児の言葉の獲得に資する環境設定や情報機器・児童文化財の活用について理解している。</p> <p>1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。</p> <p>2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。</p> <p>3) 言葉を育てる児童文化財について理解し、それらを利用できる。</p> <p>(3) 実社会の現実をふまえて保護者や学校・地域社会との連携を深めるための諸方策を理解している。</p> <p>1) 実社会における言葉に関する課題について説明できる。</p> <p>2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。</p> <p>3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。</p> <p>(4) グローバリゼーション化時代における言葉の育ちに関わる諸問題を理解し、指導・援助のあり方を説明できる。</p> <p>1) 言葉に関わる障害の諸相を理解し、障害のある幼児や保護者への適切な指導・援助が説明できる。</p> <p>2) 母語が日本語でない幼児や保護者の抱える課題や心情をを理解し、適切な指導・援助が説明できる。</p>				

授業内容と進め方		
回数	授業内容【前期】	到達目標の番号
1	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて理解する。	(1) - 1)
2	幼稚園教諭・保育教諭の役割についてグループで話し合い発表する。	(1) - 1) (3) - 3)
3	幼児をとりまく家庭や社会の言葉に関わる現状をグループで話し合い発表する。	(3) - 1) (3) - 3)
4	言葉を獲得することの意義についてグループで話し合い発表する。	(2) - 1)
5	言葉が社会的獲得物であることを理解し、幼稚園教諭・保育教諭の役割について改めて考えを深める。	(2) - 1)
6	言葉の機能について学び、幼稚園教諭・保育教諭のあるべき対応ををを発表する。	(2) - 1)
7	「言葉により自我が形成される」ことを理解し、幼児教育に携わる者としての向上心を育む。	(2) - 1)
8	誕生とともに言葉獲得のコミュニケーションが始まっていることを理解し、この時期の養育のありかたをグループで話し合い発表する。	(1) - 2) (2) - 1) 2)
9	育児語の特徴について理解し、発声法を練習する。	(1) - 2) (2) - 2)
10	領域「言語」から「言葉」への変遷要因を学び、基本的な関わり方を理解する。	(1) - 1)
11	保育の現場で悩む諸問題を出し合い、その対応をグループで話し合い発表する。	(2) - 2)
12	言葉を育てるシステムの現状について、グループで話し合い発表する。	(3) - 1) - 2) - 3)
13	領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	(1) - 3)
14	総合的な活動での領域「言葉」の役割、必要な視点を理解する。	(1) - 3)
15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解し、幼児教育のありかたをグループで話し合い発表する。	(3) - 2)
成績評価方法	授業への取り組み・グループでの話し合いへの参加（関心・意欲・態度）30% レポート（思考力・判断力・表現力）30% 定期試験（知識・理解）40%	
テキストおよび参考文献	テキスト：保育内容「言葉」 小田 豊・芦田 宏 編著 北大路書房 刊 保育内容の指導法（言葉） 山口短期大学 刊 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	
メッセージなど	幼児の言葉獲得過程と養育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験から共に考えていきましょう。	

授業内容と進め方		
回数	授業内容【後期】	到達目標の番号
1	共鳴関係について理解し、対応のありかたを発表する。	(1) - 2)
2	三項関係について理解し、対応のありかたを発表する。	(1) - 2)
3	幼児の言葉の発達段階を理解し、各段階における対応のありかたを発表する。	(1) - 2)
4	幼児語・幼児音の特徴を理解し、対応のありかたを発表する。	(1) - 2)
5	幼児の書き言葉の認識の仕方を理解し、対応のありかたを発表する。	(1) - 2) (2) - 2)
6	幼児の言葉かけの基本について理解し、想定場面での言葉かけを実演する。	(1) - 2)
7	幼稚園教諭・保育教諭の陥りがちな言葉かけについて考え、対応を発表する。	(1) - 2)
8	話し言葉・書き言葉を育てる保育室の環境作りのありかたを、グループで話し合い発表する。	(1) - 2) (2) - 2)
9	書き言葉を育てる遊びを考える。書き言葉を育てるために、絵本を使つての「しりとり遊び」の工夫をし、実演する。	(1) - 2) (2) - 3)
10	言葉を育てる様々な児童文化財の特徴を理解する。	(2) - 3)
11	絵本について発達段階ごとの幼児の認識の仕方を理解し、絵本の選択力を培う。	(2) - 3)
12	科学絵本「たんぼぼ」を読み、豊かな言葉と感性を育む絵本の役割を理解し、自分の体験事例を出し合う。	(2) - 3)
13	地域文化の大切さを理解し、地域で仲間と遊ぶなかで培われる力について話し合い発表する。	(3) - 1) - 3)
14	言葉に関わる障害の諸相を理解し、実習での体験もふまえ適切な指導・対応のありかたを話し合い発表する。	(4) - 1)
15	母語が日本語でない幼児や保護者の心情や実態を理解し、適切な指導対応を話し合い発表する。 (15.回終了後、定期試験実施)	(4) - 2)
成績評価方法	授業への取り組み・グループでの話し合いへの参加(関心・意欲・態度) 30% レポート(思考力・判断力・表現力) 30% 定期試験(知識・理解) 40%	
テキストおよび参考文献	テキスト: 保育内容「言葉」 小田 豊・芦田 宏 編著 北大路書房 刊 保育内容の指導法(言葉) 山口短期大学 刊 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	
メッセージなど	幼児の言葉獲得過程と養育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験から共に考えていきましょう。	